

## 組織目標評価報告書(平成30年度)

部局名:

岡山大学病院

部局長名:

金澤 右

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
<b>①教育領域</b>	
<b>①-1 目標</b>	<b>①-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組</b>
<p>優れた医療人を育成するため、医療スタッフへの教育・研修の充実を図り、卒前臨床実習と卒後初期臨床研修、更に後期研修へと繋がるシームレスな教育体制を強化するとともに、新専門医制度に対応した研修プログラムを関連病院との連携を含めて充実させ、専門医育成と地域医療の活性化を推進する。</p> <p>また、国際面での人材育成として、海外医療スタッフを受入れて研修を行う。</p>	<p>・医科研修部門では、マッチング説明会や初期研修医と専門医合同のオープンホスピタルを開催し、継続して広報活動を行った結果、初期研修医のマッチング率87%となり、2次募集で93%と高いマッチング率を維持した。</p> <p>・歯科部門においても、院内外の学部生を対象とした説明会を開催し、マッチング率は全体で85%の55人であったものの、そのうち自校生および出身者は61.8%の34人と高い値であった。(昨年度のマッチング率は100%、自校生および出身者は56.9%の37人)</p> <p>・医科・歯科研修部門では、研修医の指導体制充実のため、指導医養成講習会を開催し指導医数の増加を図った。医科部門は、学内指導医を19名、協力型病院の指導医を19名、計38名増加することができた。歯科研修部門では、学内指導歯科医を12名、学外の指導歯科医を20名増加することができた。</p> <p>・医科研修部門では、市中病院や地域医療研修施設と初期研修プログラムについて意見交換会を開催するなど、連携強化を図った。</p> <p>・医科研修部門では、専攻医研修プログラムを管理する委員会を設置し、専攻医の指導体制の整備を行った。また、オープンホスピタルの開催やホームページを更新するなど広報活動に取り組み、一層の専攻医獲得に努めた。</p> <p>・国際面での人材育成として、ミャンマーから医師4名、歯科医師3名、エジプトから歯科医師1名、パキスタンから歯科医師1名の計9名の臨床修練外国医師等を受け入れて、教育・研修を実施した。なお、今年度は166名の臨床修練指導医を選定した。また、ミャンマーから看護師2名を受け入れて2週間の見学実習も実施した。さらに、ミャンマーメディカルエンジニア育成体制強化プロジェクトの開始に伴い、学外機関との連携により、ミャンマー国内にて臨床工学技士育成支援を実施した。</p>
<b>①-2 年度計画との関連</b>	<b>①-2 大学全体への貢献</b>
<p>医療スタッフへの教育・研修の充実、卒前臨床実習から後期研修へと繋がる体制強化、専門医研修プログラムの検討及び地域の研修施設との連携強化に留意した。</p>	<p>・関連病院と連携しながら初期研修医及び専攻医の研修プログラムを検討し、オープンホスピタルやホームページにより継続して広報することにより、初期研修医及び専門医の獲得に尽力した。</p>
<b>①-3 目標とする(重要視する)客観的指標</b>	<b>①-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況</b>
<b>②研究領域</b>	
<b>②-1 目標</b>	<b>②-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組</b>
<p>中国・四国地区唯一の医療法上の臨床研究中核病院として、中国・四国地区の拠点病院の機能を果たすため、新たな医療の創成、先端的な医療の推進のための大規模な臨床研究及び治験の実施を行う。</p> <p>また、臨床研究法施行に併せて厚生労働大臣認定の臨床研究審査委員会を設置し、中国・四国地区で実施される特定臨床研究の審査を実施する。</p> <p>橋渡し研究における研究拠点として、中国・四国地区を中心とした各病院のシーズの掘り起こしを行い、臨床試験の実施から、薬事申請へのスムーズな接続を支援する。</p>	<p>①ARO(Academic Research Organization:アカデミアによる研究支援組織)支援件数は、平成29年度の74件に対し、平成30年度は144件(平成31年1月末現在)と順調に増加している。特に医師主導治験に対して積極的に支援を行い、拠点病院機能を充実させた。</p> <p>②臨床研究法の施行に伴い、認定臨床研究審査委員会を発足させ、新規研究の審査を14件(経過措置研究を含む)実施し、平成31年2月末までに14件全てが承認された。また、3月以降の新規申請案件も提出されており、今後も継続的な委員会運営の実施が可能である。</p> <p>③新医療研究開発センターの教員が中核となって、特定臨床研究コンシェルジュ及びReview Boardの設置等を実施し、特定臨床研究の支援体制を整備した。</p> <p>④平成30年4月より各規制等に応じたPI認定制度を実施した。そのうち、臨床研究法に携わる医師・歯科医師の特定臨床研究PI(研究責任医師)認定制度では、平成31年2月末現在で66名を認定し、法の下での臨床研究施行の品質確保に努めた。医師主導治験PI認定制度では、平成31年2月末現在で40名を認定し、医師主導治験の品質確保に努めた。また、人を対象とする医学系研究に関するPI認定制度では、平成31年2月末現在で453名を認定し、人を対象とする医学系研究(指针对応)の品質確保に努めた。</p> <p>⑤中国四国地域での橋渡し研究における研究拠点として、引き続き、研究者へのシーズ支援を行うと共に、中国・四国TR連絡会を2回実施するなどして、学内外でシーズの掘り起こしを積極的に行った結果、拠点に対するシーズ支援の応募が平成29年度118件に対し、平成30年度144件と大幅に増加しており、順調に支援件数を伸ばしている。また、データベース構築への着手、企業とのシーズマッチングに加え、ベンチャー支援についても取り組みを開始するなど、拠点としての橋渡し事業の自立化に向けた施策を推進した。</p>
<b>②-2 年度計画との関連</b>	<b>②-2 大学全体への貢献</b>
<p>臨床研究及び橋渡し研究を推進する目標との関連として、医療法上の臨床研究中核病院として、新たな医療の創成、先端的医療を推進するための臨床研究や治験を実施すること、橋渡し研究における研究拠点として、各病院のシーズの掘り起こし、臨床研究や薬事申請の支援を行うことに留意した。</p>	<p>臨床研究法に携わる医師・歯科医師の特定臨床研究PI(研究責任医師)認定制度を開始し、法の下での臨床研究施行の品質確保に努めるとともに、医師主導治験PI認定制度を開始し、医師主導治験の品質向上に貢献した。また人を対象とする医学系研究に関する指針に該当する研究を実施するPI(研究責任者)認定制度を開始し、研究精度の亢進に貢献した。</p> <p>橋渡しプログラムの外部評価委員会において、拠点外のシーズ掘り起こし・育成の取り組み、主として中国・四国地方の一体化への取り組みに対する実績に関し、橋渡し研究における研究拠点として高い評価を得ている。</p>
<b>②-3 目標とする(重要視する)客観的指標</b>	<b>②-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況</b>

<b>③社会貢献(診療を含む)領域</b>	
<b>③-1 目標</b> 地域医療機関との連携を強化するとともに、中核的医療機関としての機能を果たす。先進的かつ高度な医療(臨床研究・治験を含む)を安全に配慮しつつ、患者最優先で提供を推進する。また、次世代の術者育成を実施していくとともに、新たな先進医療の確立に努める。 医療安全・感染対策の対応強化を図るとともに、医療安全や感染対策に関する講習会を実施し、医療安全管理の意識向上を図る。 がんゲノム医療中核拠点病院として、がんゲノム医療の中心的な役割を果たすための体制整備を図る。	<b>③-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組</b> 地域医療機関との連携強化に関連し、総合患者支援センター地域医療連携部門が中心となり、「晴れやかネット」を推進した。具体的には、外来患者数適正化および地域連携推進のための施策として外来医長会等にて利用促進の呼びかけを行い、平成30年8月27日、28日に利用者ID取得のための院内講習会を実施した。初診時、入院説明時の「晴れやかネット」同意書の配布を継続実施し、前年度より公開件数が増加した。 医療安全対策強化のため専従医師GRMを配置した。また、医療安全・感染対策のマニュアルの見直しを行い安全管理体制を整備した。さらに、医療安全職員全体研修(4回、うち1回は感染と合同研修)、感染対策に関する職員研修(3回)を実施し、医療安全管理の意識向上を図った。感染対策として、小児4種ウィルスの職員の抗体価の把握を行い、ワクチン接種を推奨した。 高難度新規医療管理部では「特定機能病院承認要件の見直し」に求められている、高難度新規医療技術(当該病院で実施したことのない医療技術であって、その技術により患者の死亡その他重大な影響が想定されるもの)及び未承認新規医薬品等(当該病院で使用したことのない医薬品又は高度管理医療機器であって、医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律における承認又は認証を受けていないもの)を提供するときの妥当性の審査及び事後の検証を行い医療の安全体制に万全を期した。 がんゲノム医療中核拠点病院として、中・四国地区を中心に21の連携病院と協働してがんゲノム医療を推進した。また、国立がん研究センター中央病院を代表機関とする「先進医療B「マルチプレックス遺伝子パネル検査」」に参加し、連携病院から13の機関が参加することとなった。
<b>③-2 年度計画との関連</b> 地域医療機関との連携を強化することを年度計画にも挙げており、中核的医療機関としての機能を果たすため、かかりつけ医を持つことの患者教育と、連携先医療機関への協力依頼を行い、連携強化を促進することとした。 最先端の先進的かつ高度な医療を患者最優先で提供することを年度計画にも挙げており、安全に配慮しつつ、これらを実施したい。また、次世代教育についても、組織を挙げて取り組みたい。	<b>③-2 大学全体への貢献</b> 地域医療機関との連携強化に関連し、総合患者支援センター地域医療連携部門が中心となり、「晴れやかネット」の推進の他、逆紹介率向上のため「かかりつけ医推進キャンペーン」を実施し啓発活動を行った。また、連携先医療機関訪問時にも逆紹介推進の取り組みを伝え、受け入れ体制の強化を依頼した。逆紹介については、今年度より新たに患者支援部門で外来患者での紹介先の相談や予約取得の支援を開始した。
<b>③-3 目標とする(重要視する)客観的指標</b>	<b>③-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況</b>
<b>④管理運営領域</b>	
<b>④-1 目標</b> 経営戦略会議・執行部会議において、経営指標等について分析を行い、MBO(目標管理)を実施して各科の病院収益等の経営状況を確認・フィードバックし、病院経営の安定化を図る。 医療材料や医薬品等の経費について分析・検討し、値引き交渉を行う等、コスト削減に努める。	<b>④-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組</b> 経営戦略会議・執行部会議において、診療費用請求額、医療費率、一般病棟の「重症度、医療・看護必要度」等の経営指標について検証・分析を行った。また、MBO(目標管理)の達成状況について、各科の病院収益等の経営状況を確認・フィードバックを行うことで病院の安定的経営に努めた。 医療材料・医薬品について値引き交渉等を行った結果、医療材料は、対前年度3,883万円(平成31年1月31日現在)の削減効果、医薬品は、平成30年度(平成30年度上半期)対薬価額で3億4,529万円(税抜き)、値引率で11.1%の削減効果を得た。
<b>④-2 年度計画との関連</b> 年度計画との関連として、経営指標等について分析、MBO(目標管理)を実施して、病院経営の安定化を図ることと、医療材料や医薬品等の経費について、コスト削減に努める。	<b>④-2 大学全体への貢献</b> 診療費用請求額、医療費率、一般病棟の「重症度、医療・看護必要度」等の分析、MBO(目標管理)を実施して病院経営の安定化を図った。また、医療材料等の経費について値引き交渉を継続的に行うことでコスト削減に努めた。これらにより、大学全体の安定的経営、財務基盤の強化へ貢献した。
<b>④-3 目標とする(重要視する)客観的指標</b> 診療費用請求額、医療費率、一般病棟の「重症度、医療・看護必要度」	<b>④-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況</b> 経営戦略会議等において診療費用請求額、医療費率、一般病棟の「重症度、医療・看護必要度」等の各種指標の検証・分析を実施した。この結果、診療費用請求額は270.9億円(平成31年1月現在)、医療費率は40.4%(平成31年1月現在)を達成し、最重点の一般病棟の「重症度、医療・看護必要度」については、基準値を満たすことができた。
<b>【総括記述欄】</b> 平成30年度の組織目標の達成状況は、病院全体として概ね良好であったと考える。 教育領域においては、医科、歯科ともに卒後臨床研修を希望する学生説明会等を実施し、高いマッチング率を維持することができた。研修医の指導体制についても指導医療講習会を開催し、指導医の増加に努めた。国際面では、多職種の実入や支援を実施しており、継続的な人材育成の実施とともに、臨床修練指導医の増加を図った。 研究領域においては、医療法上の臨床研究中核病院として中国四国地方を中心に、研究の底上げを図るべく種々の取組を行った。補助金獲得については、新医療研究開発センターが中心となって、計画の立案から実施までを行っており、その他にもARO支援の実施、橋渡し研究支援などを積極的に行い、研究のボトムアップと新たな研究の開発を着実に進めた。	